

# 医療ケアを必要とする 子供のための タッチケア

生まれた直後から様々な医療ケアを受けている赤ちゃんは、手や足に触れられることを嫌がったり、抱っこがしづらい、目が合いにくい、泣き出すと止まらないなど、外からの刺激に対して敏感になりやすい傾向があります。また、発達に凸凹のある子どもたちのなかには、感覚に過敏であったり、逆に鈍麻だったりすることで、十分な触覚刺激を得る機会を逃してしまい、多動やかんしゃく、視線の合いにくさや強い不安感など、様々な困り感や生きづらさを抱えているケースも見られるようです。



皮膚はもともと、脳と同じ外胚葉から分化し、脳と同じくらいの情報処理能力を持っていると考えられています。そのため皮膚は‘露出した脳’とも呼ばれ、わたしたちが考えている以上の情報を、肌で感じ取っているのです。

「触れることが大切と言われてもどう触れていいかわからない。」  
「うちの子は感覚過敏で触れようとすると逃げてしまう。」

そんなお子さんやご家族にこそ、タッチケアをおすすめします！  
タッチケアを通して心地よい触れ合い、スキンシップの経験を重ねた子どもたちは、「自分を大切にできる気持ち」「ストレスとの付き合い方」「自分と他人との程よい距離感」を自然と身につけることができ、ます。



‘肌に触れることは心に触れること’

子どもたちひとりひとりの個性が違うように、好むタッチも人それぞれ。個々のお子さんにあつたタッチの方法を見つけながら、発達や愛着の土台となる‘触覚’にアプローチしていきます。

## \* タッチケアの流れ \* (40分)

- ① はじまりのあいさつ タッチケアを始めます。
- ② 感覚遊び 触覚にアプローチする遊びを楽しみます。
- ③ タッチケア お話を聞きながら、おうちでもできるタッチをいっしょに行い、お伝えします。
- ④ おわりのあいさつ タッチケアを終わります。

